

蔵王 名乗川本流小屋の沢

笹川

【日時】 2012年6月23日(土)～24日(日)

【メンバー】L小暮、前田(た)、前田(な)、小暮(と)

6月23日

岩手出張だった奈央さんと白石蔵王で合流し、前泊は白石の公園にて仮眠。白石から林道終点までは意外に遠く時間がかかってしまったが、元々のんびりした計画なので急ぐ必要もない。下山の登山口付近に車を停めたが、その先はすぐ土砂崩れで車は通れなくなっていた。杉が根こそぎ倒れていたりして台風4号の爪痕を感じさせられる。

小一時間で魚止橋に到着。橋から見るといきなり泳ぎかと思うが、いざ入溪すると水の冷たさに震えあがってしまう。橋の下のトロは左岸にあるトラロープに助けられて難なくツルツルをクリア。その後泳げば行けそうな段差があったが誰も泳ごうとせずに左岸を巻く。その先の5mの大釜を持った滝をリーダーは巻きか？と言うが、大高巻きになるのを嫌い良く見てみると右から登れそう。小暮が空身で登り荷揚げしているうちに更に右に簡単なルートを見つけた。シーズン始めてルートファインディングが下手過ぎた。

そろそろ竿を出さないと魚止めになってしまうということで今回竿を持ってきた小暮に先行してもらおう。奈央さんと工君は釣り未経験ということなので、釣堀のような釜で小暮から竿を借りて試してみた。当たりはあるようだが、なかなか難しいようだ。12mの直瀑を過ぎてはまだ魚影があり小暮が手掴みでまた一匹ゲットし、人数分調達できた。

1995年と2001年のトマの記録ではウドが採れたとあるが、まったくその気配はなく何とかウルイが出てきた程度だ。

20m滝の手前70m位から土砂崩れがあり雪溪の上に倒木があるので、これも台風4号の仕業のようだ。小さい砂粒が終わることなく落ちてくるのでささっと通過し、20mの滝も遠目に見て登れそうにないのでついでに巻



いてしまう。その先にあるトイ状の滝は水が多くて登れそうになく、後方に滝が2つ見え

るのでまとめて右岸から巻くことにした。何となく踏み跡があり簡単に沢に戻ることができた。この沢はゴーロがなく次々と滝が出てきて飽きることがない。

増水で水が通過したような場所ではあるが、すぐに逃げられそうな場所を見つけて幕とする。過去の記録を見ても同じ場所に泊まっているようだ。岩魚を食べるのも初めてという奈央さんと工君は、頭まできれいに頂いていた。

6月24日

沢の水は平水とまではいかないが、だいぶ減っていた。しかし水温は昨日に増して冷たく感じる。朝から次々と滝が出てくる。ミニゴルジュの3段滝は水は多いが試しに取り付いてみるが、やはり水流に負けてドボン。寒いのに余計な事をしてしまった。

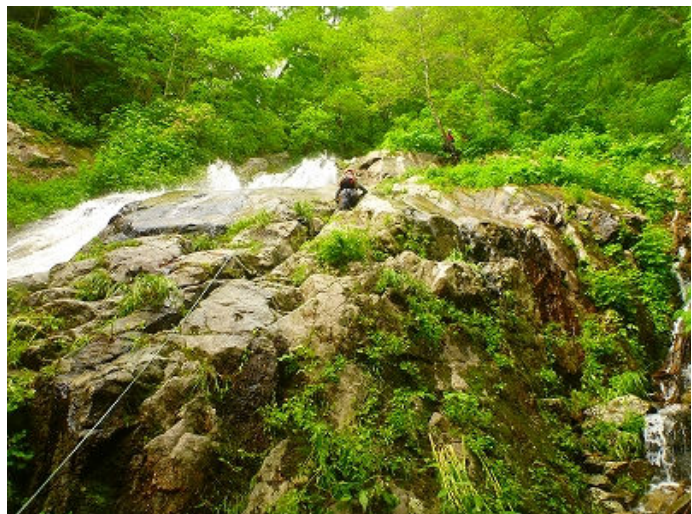
大滝30mは中段までは問題ないが、落ち口付近がヌルヌルに見える。簡単に巻くこともできたが、ロープワークやフォローの練習を兼ねて登る。最後のヌルヌルは予想以上に手ごわくゴボウで登らせてもらった。フォローの工君はハーケン回収も順調に登ってきた。そのままロープを引いて沢に戻ってもらおうとしたが、なぜか藪へと突入してしまい沢からだんだん離れていく。このままだと全員面倒なルートを進まないと行けないので、下からルートを指示して沢の方へと行ってもらう。木の支点の取り方などは実践でないと分かり難いので、こういう場面でトップをやってもらうのは有効かもしれない。

大滝の後も小滝が連続で出てくるが、ほぼ登りやすい滝で楽しい。お土産のウドとウルクイを採りながら進む。一箇所崩れそうなスノーブリッジがあったが上から見ると割としっかりしていた。

高橋さんの記録では最後は右俣を詰めているが、藪が濃そうなので我々は左俣を選んだ。先輩方の記録のおかげで一瞬の藪漕ぎで登山道に出ることができた。

下山の登山道は長く上りもかなりあるが、膝痛クラブの私にはこの上りがありがたかった。コシアブラも取れて今年2度目の山菜山行に認定。

去年まで膝が痛くて沢離れしていたけどこの位のスケールなら行けそうなので、今年はもう少し沢に通えるかな。



30m 大滝

【グレード】2級上



【行程】 6/23 登山口(8:55)～魚止橋(9:50/10:10)～P. 1354の二俣(13:35)～BP(15:30)
 6/24 BP(6:50)～登山道(11:35)～名号峰(11:55)～八方平(13:45)～登山口(15:20)

【地図】 笹谷峠、蔵王山、今宿

作図：小暮

